

累積債務問題の解決に向けて —Aid for Tradeはその一助になり得るか

欧米第二課程 フランス語専攻
国際協力特化コース
高橋 歩

0. 卒論概要

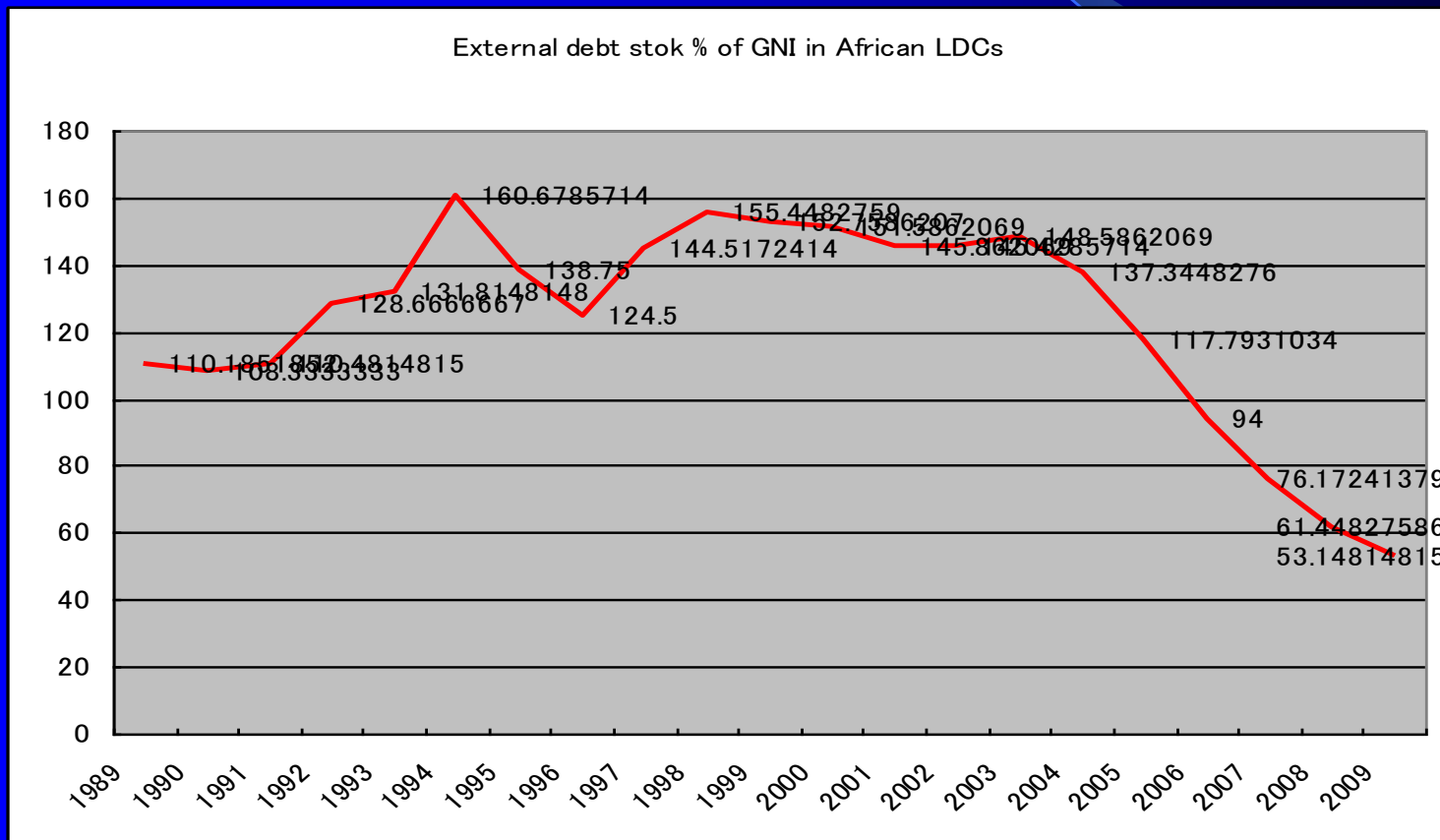
- 第1章 イン트로ダクション
 - 問題の経緯や原因、解決策とそれらへの学術的見解
- 第2章 分析手法とモデル
 - 3つの先行研究と本稿での用いるモデルと分析手法
- 第3章 データ
- 第4章 分析
 - 2つの線型モデルを用いた重回帰分析
- 第5章 結論および政策提言
- 第6章 図表データ一覧および補論
- 第7章 参考文献

1. イントロダクション

- 累積債務問題とは
 - 対外債務が累積し、一国の経済発展を阻害
 - 債務償還や支払い遅延等、資金調達が困難
 - グローバル化に伴い、外生的な大きいショック
- 援助潮流の変遷と累積債務
 - 80年代からの援助熱による途上国への貸付
 - 信用不安から途上国を避けて通る世界資金
 - 現在、超過債務国の多くがサブサハラアフリカ

1. イントロダクション

全アフリカLDCsにおける債務割合（対GNI比、1989～2009年）



1. イントロダクション

- 現在までの措置とその学術的見解
 - リスケジューリング、債務免除、ファイナンス、HIPCイニシアティブ
- 国際的な問題認識とその枠組み
 - Debt Cycle Concept、信号機システム、DSF
- **しかしながら未だに問題解決に至っていないのはなぜ？**

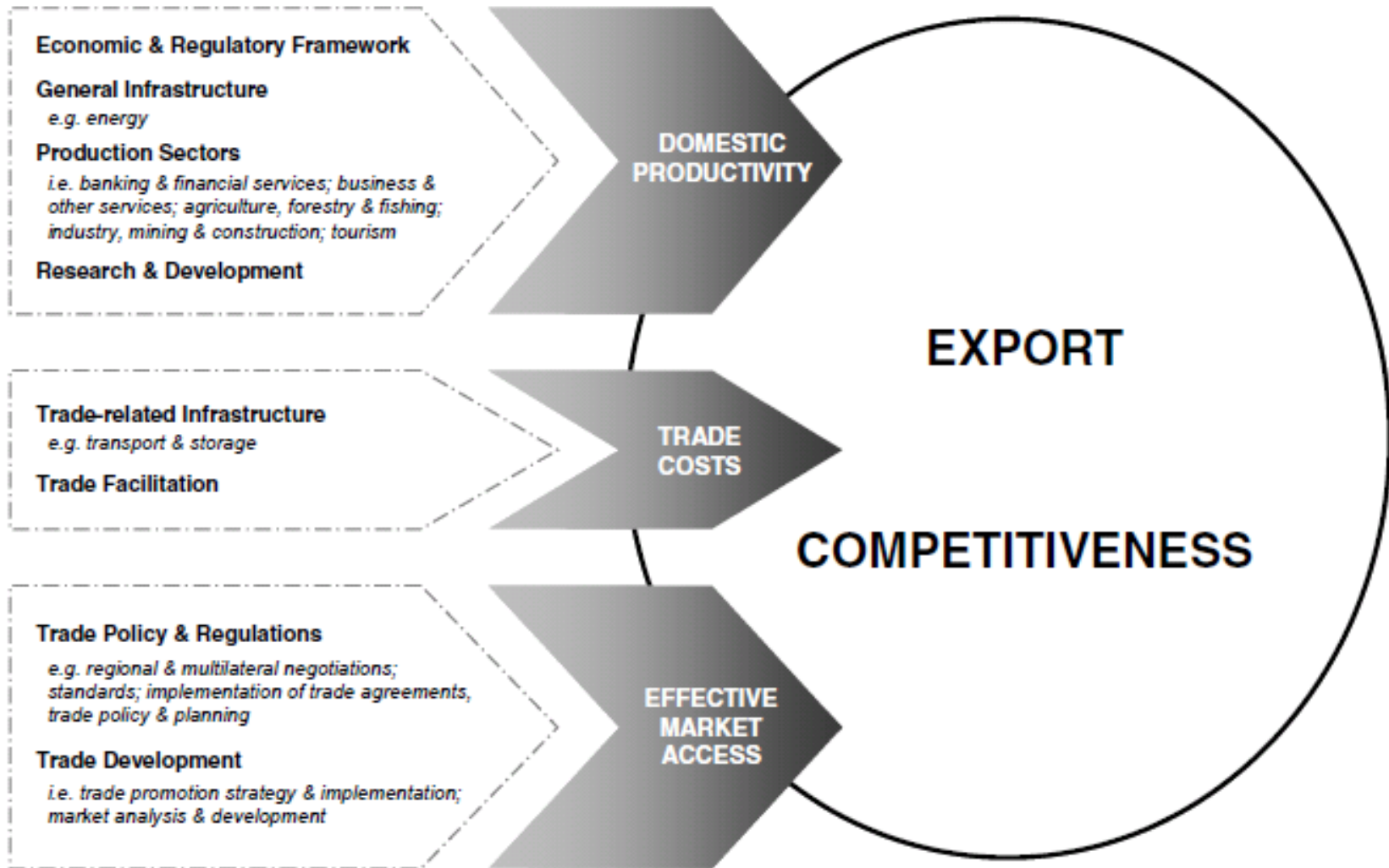
➡ 自立的な返済、自国の経済発展が不可欠

1. イントロダクション

- Aid for Trade (AfT)
 - Assists developing countries
 - To increase exports of goods and services
 - To integrate into the multilateral trading system
 - And to benefit from liberalized trade and increased market access
 - Supported by OECD, WTO, UNCTAD and G-8
- Increasing Export Competitiveness
 - 1. Domestic Productivity 2. Trade Costs
 - 3. Effective level of Market Access
- Now, AfT constitutes about **25%** of ODA

Aid for Tradeのイメージ図

Figure 4. Key inputs to improve export competitiveness



2. 先行研究

- *Kraay and Nehru (2004) When Is External Debt Sustainable?*
 - 債務困難期に陥る可能性を特に左右するのは、**CPIA指標と実質GDP成長率**である
- 木原隆司(2010)
 - *Kraay and Nehru (2004)*を地域別(アジアとサブサハラアフリカ)に分析。サブサハラアフリカにおいては、頑健な結果。

⇒サブサハラアフリカにおいて、債務困難期に陥らないようにするためには、**実質GDP成長率とCPIA指標を向上させるのが有効**

2. 先行研究

- *Massimiliano and Dirk (2010)*

- Aid for Tradeが直接的に当該国の輸出に与える影響を線型モデルにより分析。

$$E_{it} = \alpha_i + \gamma_1 \ln(AINF)_{it-x} + \gamma_2 \ln(APC)_{it-x} + BX_{it} + \lambda t + \varepsilon_{it}$$

- E_{it} : i 国の t 時点における \log (Exports)
- APC: 生産能力向上 (Productive Capacity) のための \log 援助額
- AINF: 経済インフラ整備 (Economic Infrastructure) のための \log 援助額
- X : 時変系制御変数のベクトル
- α_i : i 国におけるカントリーエフェクト
- λt : t 時点における期間推定効果
- ε_{it} : 誤差

2. 分析手法

- サブサハラアフリカにおいて、CPIA指標などに代表される**制度政策指標**と、Debt Service Ratioや債務輸出比率、実質GDP成長率に代表される**経済的債務指標**は、**債務困難期に陥る可能性に対して有意**。
- すなわち輸出額増加(とグッドガバナンス)により、累積債務問題に直面する可能性は低下させることが可能。
- **Aid for Tradeによる輸出促進、経済振興、貿易のための環境整備などが経済発展をもたらし、途上国の自立的な債務返済を可能にする？**

2. モデル

- **【式1-1】** $EXP\ it = AIDINF\ it + AIDPC\ it + CPIA + \varepsilon it$
 - i国のt時点における
 - $EXP\ it = \log(\text{輸出額})$
 - $AIDINF\ it = \log(\text{AfTのインフラ援助額})$
 - $AIDPC\ it = \log(\text{AfTの生産能力向上支援のための援助額})$
 - $CPIA = \text{当該国のCPIA指標}$
 - $\varepsilon it = \text{誤差}$
- **【式1-2】** $EXP\ it = AFT\ it + CPIA + \varepsilon it$
 - i国のt時点における
 - $AFT\ it = \log(\text{全分野におけるAfT援助額})$
 - $CPIA = \text{当該国のCPIA指標}$
 - $\varepsilon it = \text{誤差}$

表 1-1 回帰分析結果

概要					
回帰統計					
重相関 R	0.556				
重決定 R ²	0.309				
補正 R ²	0.218				
標準誤差	0.536				
観測数	27.000				
分散分析表					
	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	3.000	2.946	0.982	3.423	0.034
残差	23.000	6.597	0.287		
合計	26.000	9.543			
	係数	標準誤差	t	P-値	
切片	8.936	1.107	8.072	0.000	
AIDINF	0.339	0.209	1.622	0.118	
AIDPC	0.182	0.141	1.285	0.211	
CPIA	-1.006	0.322	-3.121	0.005	

表 1-2 回帰分析結果 (AFT トータル)

回帰統計					
重相関 R	0.548				
重決定 R ²	0.300				
補正 R ²	0.242				
標準誤差	0.528				
観測数	27.000				
分散分析表					
	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	2.000	2.863	1.432	5.144	0.014
残差	24.000	6.680	0.278		
合計	26.000	9.543			
	係数	標準誤差	t	P-値	
切片	9.247	0.929	9.957	0.000	
CPIA	-0.966	0.309	-3.127	0.005	
AFT	0.239	0.091	2.615	0.015	

4. 分析結果

- 重決定R²の値はやや低め。
- 関連性がない確率を表すP値 (Probability) は低く保たれている。→**関連性がある**
- 係数は、AfTについては予測通りプラス
→**輸出額に対してポジティブな影響**
 - 特に**経済インフラ整備 (AIDINF)**が有意
- CPIA指標に対してはマイナス
 - 先行研究とは相反する結果。

5. 結論および政策提言

- サブサハラアフリカにおいて、Aid for Tradeを促進することは、輸出額増加に有効。輸入額—輸出額の国際収支バランスを健全に保ち、国家財政を安定させ、自立的な債務返済を可能にする。
- 「貿易のための援助」は「貿易のためだけの援助」ではない。
- 債務問題が解決されれば、BHN(Basic Human Needs)の向上も見込まれる。
- しかし、それもガバナンス次第。援助の選択性(セレクトイビティ)を持つドナー側も考慮が必要。

宇野先生、ゼミ生のみなさん

2年間ありがとうございました。
きちんと学問できるところ、
それが宇野ゼミでした。
これからみんなで
世界を舞台に活躍しよう！
がんばろうー(^0^)/

